

クモ類

1 選定・評価方法の概要

クモ類 (Arachnida) は 1998 年版には取り上げられておらず、今回の改定において初めて対象に加わった動物群である。クモ類には、いわゆる糸を出すクモ目 (Araneae) のほかダニ目 (Acari)、ザトウムシ目 (Opiliones)、カニムシ目 (Pseudoscorpiones) など多くの群を含むが、ダニは保護の観点からの情報に乏しく、また、ザトウムシおよびカニムシについては差し迫った対象種がなかったため、本土部においてはクモ目のみを評価対象とした。

クモは日本に約 1,500 種が知られる多様性に富む動物で、個体数も多く、体サイズや生態学的な特性も変化に富む。生涯を通じて肉食性で、自然環境あるいは市街地の緑地などの人為環境下の生態系において昆虫類の捕食者として、また、鳥類や両生類、爬虫類などの小型脊椎動物の食餌動物としても重要な役割を果たしている。

検討に際しては、文献の探索や国立科学博物館が所蔵する標本の再検討のほか、東京都のクモ類について造詣のある多くのクモ研究者と情報交換を行なった。その過程で、東京都で確認されているクモ類 600 種近くのうち約 1 割を掲載候補として検討を重ね、最終的には 33 種を検討対象種として評価を行った。

分類体系や学名および和名は『日本産クモ類』(小野展嗣編, 2009, 東海大学出版会) に従い、ランク付けは、環境省の『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、クモ類・甲殻類等 2006』を参考に、東京都の特殊性を加味して定性的要件に基づいて行った。

2 選定・評価結果の概要

評価の結果、33 種が本レッドリストの掲載種に選定された。洞窟など暗湿な環境に依存している種 (ニッパラマシラグモなど) や分散を歩行に頼る移動能力の低い種 (カネコトタテグモなど) もあるが、多くは純粋に森林、草原、水辺などの良好な環境を必要としたり、餌となる昆虫の大きさや多様性に影響されやすいなど植生や環境の人為的な改変に敏感に影響されるクモであり、そうした種々の要因が複合的に働き結果的に個体数を減らしたり希少となっているものである。

(小野展嗣)

ワスレナグモ

Calommata signata

クモ目
ワスレナグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
NT	NT	NT	DD	NT	NT

【形態・生態】

体長♀ 13～18mm、♂ 5～8mm。♀の背甲および歩脚は黄褐色または淡褐色、腹部は紫褐色、褐色あるいは黄褐色。♂は全体に黒褐色で小さく、別種のように見える。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で、下顎の前側面は長く突出する。♀の第1歩脚は他の歩脚に比べて小さい。地中に縦穴式の住居を作る。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

本来は開けた草原に生息するが、市街地でも公園の芝生などで見られることがある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や公園の改修工事により生息環境が著しく減少している。自然草原を保全することが重要と考えられる。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



カネコトタテグモ

Antrodiaetus roretzii

クモ目
カネコトタテグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
VU	NT	VU	NT	NT	NT

【形態・生態】

体長♀ 12～15mm、♂ 10～13mm。背甲および歩脚は淡褐色ないし黒褐色、腹部は淡褐色または黒褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で、馬鋏を有する。下顎の前側面は突出しない。後内疣の基部は広く離れる。地中に管状の穴を掘り、入り口に両開きの扉をつける。

【分布の概要】

本州 (青森から兵庫)

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境を必要とし、開発などの際には留意する必要がある。特に平地、市街地では絶滅に近い。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



キシノウエトタテグモ

Latouchia typica

クモ目
トタテグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
VU	NT	NT	NT	NT	NT

【形態・生態】

体長♀ 12～20mm、♂ 10～15mm。前体は黒褐色で歩脚はやや赤みを帯びる。腹部は紫褐色、褐色あるいは黒褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で馬鋏を有し、下顎に多数の歯状突起を備える。前内疣の基部はやや接近する。地中に比較的短い管状住居を作り、入り口に扉をつける。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から山地の樹林に生息し、市街地でも社寺林や公園、人家の庭に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や公園の改修工事などにより生息環境が影響を受ける。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



キノボリトタゲモ

Conothele fragaria

クモ目
トタゲモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
VU	NT	NT	DD	NT	NT

【形態・生態】

体長♀♂ 8～12mm。背甲および歩脚は黒褐色で、腹部は暗紫褐色。トタゲモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で馬鍬を有し、下顎および下唇に多数の歯状突起を備える。第3歩脚基部に無毛の窪みがある。前内疣の基部はやや離れ、後疣は比較的短い。木の幹の上や苔むした岩の上などに長さ2～3cmの袋状の住居を作り、入り口に扉をつける。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から山地の樹林に生息し、市街地でも社寺林などで見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や公園の改修工事、特に樹木の伐採による影響が大きく、区部では減少傾向にある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

コマツエンマグモ

Segestria nipponica

クモ目
エンマグモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
—	—	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀♂ 5～7mm。背甲は黒褐色、歩脚は灰褐色で、腹部は黒褐色の地に淡色の斑紋がある。6眼、3爪を有し、篩板はなく、1対の書肺および気管を有する。体は細長く、上顎はやや大きく、前牙堤に3歯、後牙堤に2歯がある。歩脚に多数の刺を備え、第3歩脚は前方を向く。単性域類に属し、外雌器がなく、♂の触肢器官は紡錘形。樹皮の割れ目、岩の隙間などに管状の住居を作り、入り口は開放型。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

主に低山地の樹林に生息し、良好な社寺林などで見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

エンマグモ科の他種に比べ個体数が少なく、開発など(特に伐採)の影響を受けやすい。区部、市街地では見られない。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

アケボノユウレイグモ

Spermophora akebona

クモ目
ユウレイグモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
□	□	□	NT	NT	

【形態・生態】

体長♀♂ 2～3mm。背甲および歩脚は淡黄色で、背甲の周縁は黒褐色、腹部は淡橙黄色の地に数対の暗色斑がある。6眼、3爪を有し、篩板はなく、1対の書肺および気管を有する。体は柔らかく、歩脚は極めて細長い。単性域類に属し、外雌器がなく、♂の触肢器官は複雑な突起を伴う。洞窟の中や溪流沿いの岩の間に不規則網を張る。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生息環境】

西多摩の山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布域が西多摩に限られる。暗く湿った樹林環境を必要とするため、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

ヤマトマシラゲモ

Falcileptoneta japonica

クモ目
マシラゲモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 1.6～1.7mm。体は半透明で、全体に淡黄白色または淡灰色。6眼、3爪を有し、篩板はなく、1対の書肺および気管を有する。体は柔らかく、歩脚は極めて細長い。単性域類に属し、外雌器がなく、♂の触肢脛節先端に台座のある1本の鉤状突起を備える。林床の落葉層や石や倒木の下の際間などにシート状の網を張る。

【分布の概要】

本州（関東）

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

種の分布域が限られる。また林床に落葉や倒木が存在するような樹林環境を必要とするため、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

Simon, E., 1893; 小野展嗣（編著）, 2009.



（執筆者：小野展嗣）

ニッパラマシラゲモ

Masirana nippara

クモ目
マシラゲモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 2～2.5mm。体は半透明で、全体に淡黄褐色。6眼、3爪を有し、篩板はなく、1対の書肺および気管を有する。体は柔らかく、歩脚は非常に細長い。単性域類に属し、外雌器がなく、♂の触肢脛節先端に1本の先が曲がった刺状突起および1個のろうと状の突起を備える。洞窟性のクモで、鍾乳洞内の岩の隙間などにシート状の網を張る。

【分布の概要】

本州（関東から中部）

【都における生息環境】

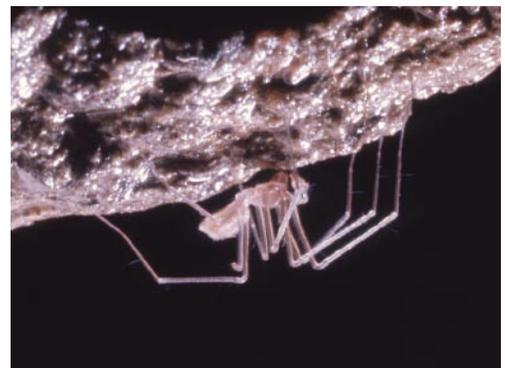
西多摩の鍾乳洞内の岩の隙間などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生息地が限定されるので、鍾乳洞の観光利用や山林の改変などにより容易に絶滅するおそれがある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣（編著）, 2009.



（執筆者：小野展嗣）

ヤマトヤギヌマゲモ

Telema nipponica

クモ目
ヤギヌマゲモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 0.8～1.2mm。体は半透明で、背甲は淡黄褐色、腹部は紫灰色。6眼、3爪を有し、篩板はなく、書肺を欠く。単性域類に属する小型種で、外雌器がなく、♂の触肢器官は紡錘形。間疣が球形で大きい。山地の地下間隙に生息しているクモで、洞窟内や、樹林の落葉層などにシート状の網を張る。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生息環境】

西多摩の山地に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の樹林環境に生息し、山林の改変などの影響を受けやすい。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣（編著）, 2009.



（執筆者：小野展嗣）

ムサシミタナグモ

Cryphoea shinkaii

クモ目
タナグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
□	□	□	VU	VU	

【形態・生態】

体長♀♂ 2.7～3.2mm。背甲は黒褐色で側縁は黄色、腹部背面は灰色で不規則な白斑がある。8眼、3爪を有し、無篩板で、1対の書肺を有する。外雌器の前方に舌状の中壁があり、♂触肢の中部把持器は短い刺状。岩や倒木の上に生えるコケ植物の群落の中に糸で管状の住居を作る。

【分布の概要】

本州（関東）

【都における生息環境】

西多摩の山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布域が狭く、生息環境も湿潤な山地の樹林環境に限定されるので、わずかな山林の改変などでも大きい影響を受けるおそれがある。

【関連文献】

Ono,H., 2007; 小野展嗣（編著）, 2009.



（執筆者：小野展嗣）

ドウシグモ

Doosia japonica

クモ目
ハウシグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
VU	NT	NT	NT	NT	DD

【形態・生態】

体長♀♂ 3～4mm。前体、後体ともに光沢のある黒色で、腹部背面前方に2対、後方正中部に2個の白斑がある。8眼、3爪を有し、無篩板で、1対の書肺と気管系を併有する。背甲は中凸。♂触肢が非常に大きく側方向に扁平で、栓子は糸状で長い。大木の樹皮下に糸で袋状の住居を作る。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林の樹上に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な樹林環境に生息するため、樹林の伐採によって絶滅するおそれがある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣（編著）, 2009.



（執筆者：小野展嗣）

シノビグモ

Shinobius orientalis

クモ目
サシアシグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	—	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀♂ 5～8mm。背甲は黄褐色の地に暗褐色の斑紋があり、歩脚は黄褐色で緑褐色の環斑がある。腹部背面は黒褐色または暗灰色の地に黄褐色の心臓斑と数対の白斑がある。8眼、3爪を有し、無篩板で、1対の書肺と気管系を併有し、気管気門は糸疣の直前に開口する。狩猟性で、山間溪流や樹林内の草間などに見られる。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生息環境】

山間溪流の水際や樹林内の草間、落葉層、石のすき間などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

発見されている場所は極めて限られる。河川工事、治水事業の際には特に留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣（編著）, 2009.

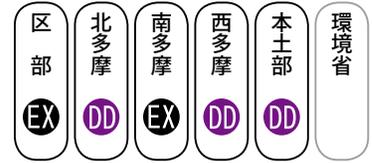


（執筆者：小野展嗣）

スズキコモリグモ

Lycosa suzuki

クモ目
コモリグモ科



【形態・生態】

体長♀ 15～20mm、♂ 10～15mm。背甲は暗褐色ないし黒褐色で正中および側方に白毛からなる縦斑がある。歩脚は灰色。腹部背面は赤みがかった暗灰色の地に黒褐色の心臓斑と数対の黒斑がある。8眼、3爪を有する。同属の他種とは背甲および腹部の斑紋で区別できる。大型の狩猟性のクモで、樹林の林縁や草原、河原などで見られる。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生息環境】

平地から山地の林縁の地表、草原、河原などで見られるが個体数は非常に少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人為的かく乱の少ない環境を必要とし、市街地での生息は不可能と思われる。山地でも開発などによる影響は大きいと推測される。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.

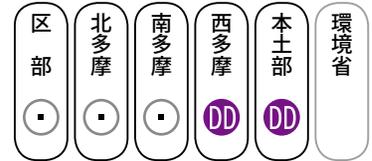


(執筆: 小野展嗣)

カナコキグモ

Tapinopa guttata

クモ目
サラグモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 3.5～4.0mm。背甲および歩脚は濃黄褐色ないし黒褐色、腹部背面は黄褐色の地に3～4対の大きい黒褐色の斑紋がある。8眼、3爪を有する。上顎の前牙堤に6本の鋸歯を備える。外雌器は幅広く、中央に垂体を形成する。♂触肢の杯葉基部に頭巾状の突起がある。樹林、草地の地表に糸を膜状に張って袋状の網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生息環境】

寒地性のクモで、東京都本土部では山地の高標高地のみに見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

高標高地にのみ生息しているため、それらの地域で開発などを行う際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

ニシキサラグモ

Taranucnus nishikii

クモ目
サラグモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 2.5～2.7mm。背甲および歩脚は黄褐色、腹部背面は淡いベージュ色または灰色で、後方に黒褐色の斑紋がある。上顎の前牙堤に3歯を備える。外雌器は中央に硬化した舌状体を形成する。♂触肢の杯葉は小さく、基部に特異な突起がある。岩の隙間などにシート状の網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生息環境】

樹林内の暗い場所や洞窟に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林床に空隙を有するような樹林環境や洞窟を必要とし、開発などによる環境変化により絶滅のおそれがある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

トウキョウホラヒメグモ

Nesticus shinkaii

クモ目
ホラヒメグモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 4～5mm。背甲および歩脚は淡黄褐色ないし乳白色、腹部背面は淡黄褐色で数対の黒褐色の点斑がある。8眼、3爪を有する。外雌器の垂体は比較的短く先端が丸い。♂触肢の小杯葉は大きく、特異な突起を備える。岩の隙間などに不規則網を張る。

【分布の概要】

本州（今のところ東京のみ）

【都における生息環境】

特定の洞窟に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

洞窟性で、鍾乳洞の観光利用や開発による環境改変により絶滅のおそれがある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

サンロウドヨウグモ

Meta japonica

クモ目
アシナガグモ科



【形態・生態】

体長♀♂ 9～15mm。♂はやや小さい。背甲は褐色で正中および側方は濃色、歩脚は暗褐色。腹部背面は褐色、黒褐色、黄褐色の部分が入り交じる。8眼、3爪を有する。外雌器の前部は球状に膨れ突出する。♂触肢の小杯葉は発達する。暗所に円網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

山地の樹林内や渓流域、洞窟などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地のみに生息しているが、鍾乳洞の観光利用や樹林の伐採に留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

キジロオヒキグモ

Arachnura logio

クモ目
コガネグモ科



【形態・生態】

体長♀ 25～30mm、♂ 1.5～1.8mm。♂は非常に小さく、全く別種の感がある。♀の背甲および歩脚は濃黄褐色または褐色、腹部背面は黄白色ないし灰色で、1対の目立たない縦線がある。♂は全体に黒褐色。腹部の特異な形状から♀の識別は容易である。大きい円網を張る。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林内に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

大型の稀産種で餌昆虫の多様性を必要とすると考えられる。樹林の伐採の際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

コガネグモ

Argiope amoena

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
VU	NT	NT	NT	NT	

【形態・生態】

体長♀ 20～30mm、♂ 5～7mm。♀の背甲は黒褐色の地に銀白色の毛が密生する。腹部背面には黄色と黒色の太い横縞模様がある。♂は全体に黄褐色で別種のように見える。腹部の色彩や独特の斑紋から♀の識別は容易である。大きい円網を張る。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から低山地の開けた草原、田畑の周囲、河川敷などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

昭和30年代までは各地で普通に見られたが、今日までに明らかに個体数が減少した。良好な草地環境が開発や農地化によって失われたことと、継続的な農業散布により餌昆虫の量および多様性が減少したことが原因と考えられる。繁殖力が強いので保全対策の内容によっては回復する可能性がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



ツシマトリノフンダマシ

Paraplectana tsushimensis

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 7～10mm、♂ 2～3mm。♀の背甲は橙色ないし明赤褐色。腹部背面も同色の地に6対の黒色の点斑がある。♂は小さく別種のように見える。♀は腹部の色彩や独特の斑紋から識別は容易である。同心円状の円網を張る。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から低山地の草原、林縁の下草、河川敷などに生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

全国的に見て分布は広いが記録は極めて少なく、東京都本土部でも数例である。自然草原の減少は本種のようなクモに大きい影響を与えるので、農地や河川の開発の際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



マメイタイセキグモ

Ordgarius hobsoni

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 6～9mm、♂ 1.6～2mm。♀の背甲は褐色、腹部の地は暗褐色で瘤は暗色ないし赤みを帯びる。背甲には多数の刺状突起があり、腹部は幅広で、豆板を思わせる瘤状の突起で覆われる。♂は小さく、別種の感がある。粘球のついた糸を回転させてガ類にぶつけて捕食する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

全国的に見ると平地から低山地の草原、林縁、河川敷などの低木や草上に生息し、里山の果樹園などでも見つかる。東京の記録は数回のみである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

記録は極めて少なく個体数については未知だが、生息環境としての自然草原を保全することが重要である。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



ムツトゲイセキグモ

Ordgarius sexspinosus

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
○	○	NT	NT	NT	

【形態・生態】

体長♀ 7～11mm、♂ 2mm 前後。♀の背甲は褐色で白線を伴い、頭部は黒褐色。腹部背面は黒褐色あるいは灰褐色。♂は全体が黒色。♀の背甲には6本の顕著な刺状の突起がある。腹部の突起はマメイタイセキグモのように均質ではなく、数も少ない。腹部の独特の形状から識別は容易である。粘球のついた糸を回転させてガ類にぶつけて捕食する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から低山地の灌木林や桑畑、果樹園の低木の葉裏に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

餌となる昆虫類が限定されるので、過度の農薬散布や開発によって昆虫の多様性が失われないようにすることが重要である。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

トゲグモ

Gasteracantha kuhlii

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
○	○	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 5～8mm、♂ 3～4mm。♀の背甲および歩脚は黒色で、腹部背面は白色の地に黒色の大きい斑紋があるか、黒色の地に白色斑を伴う。体は全体が硬化し、♀の腹部周縁に3対の先端が尖った突起がある(♂では不明瞭)。東京都本土部に生息するトゲグモ類は本種1種のみで、かつ独特の形状から識別は容易である。大きい円網を張る。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の林縁の樹間に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布は局限され、個体数の変動をつかみにくいが、樹林環境を必要とするため開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

コケオニグモ

Araneus seminiger

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
DD	DD	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 15～22mm、♂ 10～14mm。全体がウメノキゴケなどの地衣類を思わせる色彩と模様を持つ。背甲および歩脚は黒褐色の地に緑色、桃色、黒色などの斑紋があり、腹部は緑色の地に褐色の部分(肩)や黒色の葉状斑がある(標本では明るい色彩は失われる)。生時は色彩で判別がつくが、標本では近縁のオニグモ(緑色を帯びる個体がある)との区別は生殖器の細部を比較しないと困難である。樹間に円網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

発見されることは稀である。地衣類やコケ類が生育するような安定した樹林環境を必要とするため、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

ニシキオニグモ

Araneus variegatus

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
DD	DD	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 11～15mm、♂ 9～10mm。背甲は褐色ないし黒褐色、歩脚は黒褐色と濁黄色の縞模様。腹部は黒褐色と山吹色で複雑な模様を形成し、黒褐色の葉状斑がある。美しい色彩および斑紋を持ち、識別は容易である。比較的高い位置の樹間に円網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然林のほか社寺林などの人工林に生息するが、安定して陰鬱な樹林環境を必要とするため、開発などの際には留意が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

ゴマジロオニグモ

Mangora herbeoides

クモ目
コガネグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	NT	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀♂ 5～6mm。背甲および歩脚は褐色ないし濁黄色で、背甲の正中部は黒色、歩脚には黒色の環斑がある。腹部は黄色で後部に4～5対の黒色点斑がある。大きさと色彩、斑紋で判別は比較的容易である。林縁の下草の間などに円網を張る。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

広域分布を示すが、個体数は少なく、開発などの環境変化に弱いと考えられるため、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

アワセグモ

Selenops bursarius

クモ目
アワセグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
—	—	VU	—	DD	

【形態・生態】

体長♀♂ 8～12mm。背甲、歩脚、腹部ともに淡褐色ないし濁黄色の地に暗色の斑紋を有し、全身がまだら模様に見える。8眼、2爪を有し、篩板はなく、1対の書肺と気管系を併有する。体は非常に扁平。後中眼が前方にあり、あたかも前眼列に6眼あるように見える。夜間狩猟性で、網を張らない。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

一般的には、平地から低山地の樹林に生息し、大木の樹皮下や社寺の板壁の間などに入り込む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

これまで、南多摩で1回の記録があるのみ。大木が生育する樹林で確認されたことから、開発などの環境変化に弱いと考えられるため、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

コアシダカグモ

Sinopoda forcipata

クモ目
アシダカグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
VU	NT	NT	DD	NT	

【形態・生態】

体長♀ 18～25mm、♂ 15～20mm。背甲、歩脚、腹部ともに暗褐色ないし黒褐色の地に黒色や白色のわずかな斑紋を有する。8眼、2爪を有する。同じく大型の別種アシダカグモとの区別は容易ではなく、♀♂の生殖器を比較する必要がある。昼間は物陰に隠れ夜間に獲物を狩る。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

大型で、本来は良好な樹林に生息し、良好な樹林環境の指標種と考えられる。開発などによる乾燥化によって、絶滅が危惧される。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆者: 小野展嗣)

カトウツケオグモ

Phrynarachne katoi

クモ目
カニグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
DD	DD	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 8～13mm、♂ 2～3mm。♀の背甲は褐色で前縁は白い。歩脚は第1～2歩脚の基部に近い部分が白色で、先端に近い部分は黒色。第3～4歩脚は短かく目立たない。腹部は暗褐色ないし黒褐色の地に黒色や明るい色のわずかな斑紋を有する。♂は全身が黒っぽい。腹部に多数の疣状の突起があるのでカニグモ科の他種との区別は容易。狩猟性で網を張らない。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生息環境】

平地から低山地に生息し、低木や草の葉の表側に静止する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

発見される個体数が少ないが、良好な自然環境に見られ、環境の改変には敏感であると推測される。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆者: 小野展嗣)

ヨコフカニグモ

Xysticus transversomaculatus

クモ目
カニグモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	本 土 部	環 境 省
NT	DD	DD	DD	DD	

【形態・生態】

体長♀ 5～8mm、♂ 3～4mm。♀の背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線条や黒斑がある(このような色彩や斑紋は同属の種の多くに共通)。♂は初期には♀と同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。カニグモ属には外見では区別が付きにくい種が多数あり、同定は専門家でないとい困難である。狩猟性で網を張らない。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の湿原、河川敷、公園の芝生など比較的丈の低い草原に生息する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な草原環境の指標種と考えられ、特に河川工事や市街化など環境の改変に留意する必要がある。

【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆者: 小野展嗣)

オビボソカニグモ

Xysticus trizonatus

クモ目
カニグモ科



【形態・生態】

体長♀ 5～8mm、♂ 4～5mm。♀の背甲は淡褐色で両側は褐色ないし鉛色をしており、後部に1対の大きい黒色斑がある。腹部は褐色ないし鉛色の地に白い線条や黒斑がある。♂の背甲および歩脚は黒褐色。狩猟性で網を張らない。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息し、樹木の幹や葉上、下草上に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な樹林環境に生息し、個体数も少ないので、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

アシナガカニグモ

Heriaeus mellottei

クモ目
カニグモ科



【形態・生態】

体長♀ 6～8mm、♂ 4～5mm。全身が淡緑色の美しいクモで、背甲の正中および腹部の両側に白色の条がある。8眼、2爪を有し、無篩板で、1対の書肺と気管系を併有する。カニグモ科の他種とは、全身が白色の軟毛で覆われることで区別は容易。狩猟性で網を張らない。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の草原や林縁の草むらの低木や草の葉上に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な草原環境を必要とし、個体数も少ないので、開発や公園の改修工事などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.

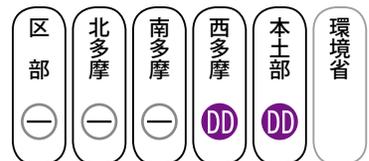


(執筆: 小野展嗣)

ナガイツツグモ

Anyphaena ayshides

クモ目
イツツグモ科



【形態・生態】

体長♀ 6～9mm。背甲および歩脚は褐色ないし濃い黄褐色、両側はやや暗色。腹部はベージュ色ないし淡黄褐色で、褐色の心臓斑および不明瞭な暗色の斑が入る。8眼、2爪を有する。同属によく似た別種イツツグモがあり、同定には注意を要する。狩猟性で網を張らないが、袋状の住居を作る。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息し、樹木の幹や葉の上、林縁の下草の上で見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な樹林環境を必要とし、個体数も少ないので、開発などの際には留意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣 (編著), 2009.



(執筆: 小野展嗣)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類 . 東海大学出版会 . に準拠した。

【関連文献】

千国安之輔, 2008. 写真日本クモ類大図鑑 (改訂版). 偕成社 . 309 pp.

Ono, H., 2007. Eight new spiders of the families Hahniidae, Theridiidae, Linyphiidae and Anapidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, Series A*, 33(4): 153-174.

小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類 . 東海大学出版会 . 738 pp.

新海栄一, 2006. ネイチャーガイド 日本のクモ . 文一総合出版 . 336 pp.

Simon, E., 1893. Descriptions de quelque Arachnides appartenant aux familles des Leptonetidae et Oonopidae. *Annales de la Société Entomologique de France*, 62, Bulletin: 247-248.